

機同啄啐



大阪市立榎本小学校

5月25日

NO、7

今日の朝会

毎週月曜日は、児童朝会です。

今日の朝会では「エジソン」の話をしました。よくご存じとは思いますが、エジソンは世界の発明王と呼ばれています。

一説によると、1300もの発明品を生み出した言われています。

エジソンが発明した電球について取り上げました。電球のフィラメントに適した差材を探すために何度も実験を行いました。その数1万回とも2万回とも言われています。

もし9999回で諦めていたら、人類は未だに夜の暗闇に恐れを感じて生活していたかもしれません。

ある記者がエジソンにインタビューしました。

「1万回も失敗したのに、よく実験を続けられましたね。」

それに対してエジソンは、

「失敗？失敗などしていないよ。フィラメントに適さない素材を見つけただけ。実験は全て成功だよ。」

人は、失敗を嫌います。

人は、間違えることを避けたがります。

しかし、多くの偉大な先人は失敗の中にこそ価値を見出しています。

以前にも書きましたが、グーグルXの統括責任者である「アストロ・テラー」さんは、失敗した社員を表彰台にあげて、「よくやった、みんな見習おう。」とみんなの前で褒め。評価したそうです。失敗できる雰囲気を作るようにした結果、多くの革新的な意見が出て、画期的な企画が生まれたといわれています。

ホンダの創業者、本田宗一郎氏も、

「失敗が人間を成長させると私は考えている。失敗をしない人なんて本当に気の毒に思う。」という言葉を残しています。

子ども達には、「あの偉いエジソンでさえ1万回以上の実験の失敗、間違いをした。皆さんが教室で100回や1000回ぐらい間違えるのは当たり前です。エジソンですら1万回なのだから。間違えた、失敗したわけではないのです。このやり方、考え方だとうまくいかない、ということが分かったのです。実は、それこそが学ぶということなのです。」

ということを話しました。

ご家庭でも、子ども達の失敗を厳しく叱責するのではなく。そこから学ぶという方向にお話ししてあげてください。



榎本小学校 校長 篠崎 勇